

# 本場大島紬の世界

長い歴史を重ねながら、燦爛と輝く陽の光の中で、  
 気の遠くなるような手間暇をかけて創られてゆく本場大島紬。  
 そこには人と自然の限りない愛のドラマがあります。

皆様、日頃のご愛顧心より感謝申し上げます。そしてのご案内状をご覧ください誠にありがとうございます。  
 この度、本当に久しぶりに本場大島紬展を開催する運びとなりました。  
 昨今、伝統工芸品と言われるきものや帯を創る職人さんが激減する状況の中で、「大島紬はこんなに大変な手間を  
 掛けて創られている」ことを、1人でも多くの皆様に知っていただきたいと思っております。  
 世界一精緻な織物と言われる大島紬は、図案の制作から織り上げられた作品を検査するまで、何と30を超える  
 工程があり、きもの問屋の仕入担当者でも全てを理解出来ていないそうです。  
 今回の催しにお気軽にご来場のうえ、ぜひとも日本が世界に誇る本場紬の魅力をご体感いただきたく  
 ご案内申し上げます。

※掲載の写真の品はイメージです。

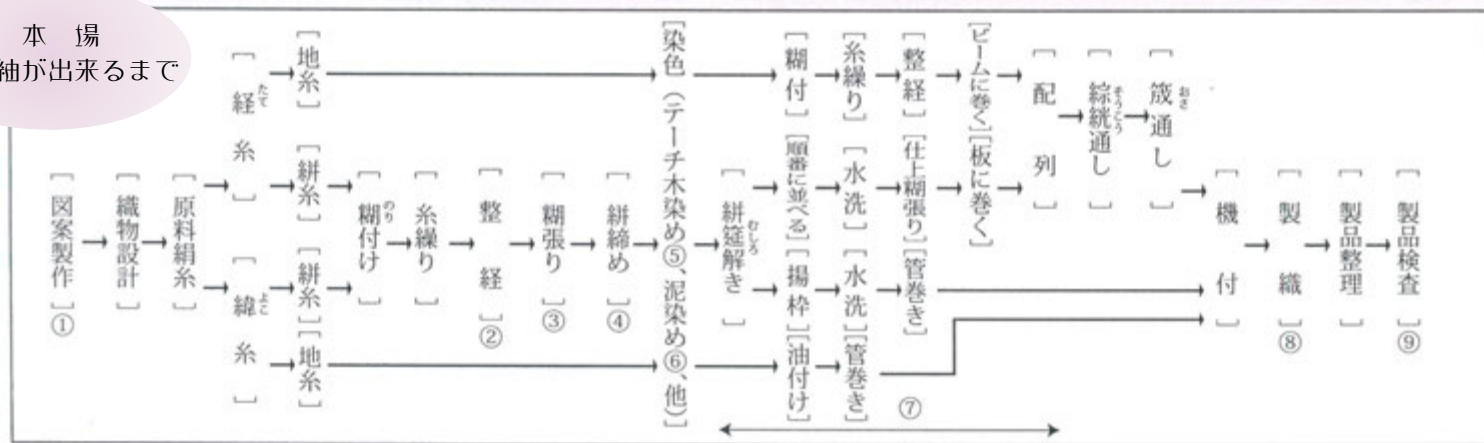


泥染大島紬着尺



白大島紬着尺

本場  
大島紬が出来るまで




- 

**① 図案製作**  
 デザインされた原図を方眼紙に書き写して、種別、糸の密度などに合わせて、図案を作る作業です。
- 


**② 糸繰り、製経**  
 図案に基づき、専用の台で必要な長さとお本の絹糸を揃える作業です。
- 


**③ 糊張り**  
 揃えた絹糸がバラバラにならないよう「イギス」という海藻を鍋で煮て溶いた糊を付け棒に張り、天日で充分に乾燥させ固める作業です。
- 

**④ 縮加工**  
 縮機（しめばた）を使って、複雑で細かい拵模様を作る大島紬独特の作業です。図案に合わせて絹糸の拵部分を防染するために、木綿糸で織り締めて拵を作ります。
- 

**⑤ テーチ木染め**  
 テーチ木をチップにして釜で煎じた液で絹糸を染める作業です。何度も液を替え、繰り返して揉み込み染色すると、絹糸が赤茶色に染まります。
- 

**⑥ 泥染め**  
 テーチ木で染めた絹糸を泥田で染める作業です。泥に含まれる鉄分とテーチ木のタンニンが反応し、絹糸が赤茶色からだんだん黒く変わっていきます。テーチ木染めと泥染めを交互に何度も繰り返して、決して化学染料では合成しえない独特な深みのある黒褐色に染上げます。
- 

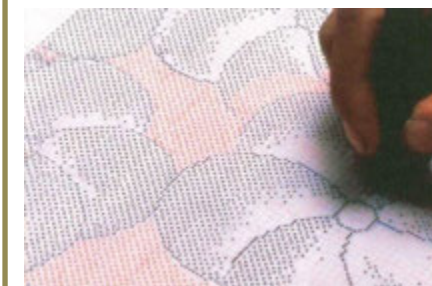
**⑦ 加工**  
 織る人へ絹糸を渡す前に最終的な糸の整理や準備をする作業です。染めた拵の木綿糸を全て取り除き、1本1本の糸の状態にし、図案のとおり並べます。拵模様の色を付ける場合、図案に合わせて色を挿していきます。
- 

**⑧ 製織**  
 管に巻き取った緯糸を杼に通して、高機（たかばた）で織り上げる作業です。約7cm織るごとに経糸をゆるめ、針で経糸糸を1本1本調整し、経緯の拵を正確に合わせていきます。
- 

**⑨ 検査**  
 織り上げられた本場奄美大島紬を本場奄美大島紬協同組合で検査する作業です。検査員が、長さ、織り幅、拵揃い、色ムラ、織りキズ、量目不足など、24項目に及ぶ厳重なチェックを行い、合格不合格を決定します。

## 知ってなるほど大島紬

30を超える複雑な工程を経て大島紬がつくれるまでをパネル等の資料で分かり易く解説。これであなたも大島通！



拵図案



泥染め



拵解き(かすりむしろとき)



手織り

本場大島紬は、気の遠くなるような数々の工程を経て何人も職人さんの思いを込めて制作されるので、出来上がるまでに半年から一年以上かかります。しかし、ピーク時(昭和四十七年頃)には八十万反程あった年間生産反数が、その後減少の一途を辿り、近年では何と百分の一の八千反程度にまでなっています。原因は職人さんの激減(後継者不足)と需要減によるものです。最近では着物専門店店頭でも本場大島紬の展示会では、永年に亘り本場大島紬の様々な魅力を伝え続けてきた松屋に産地組合が全面協力。織り上がったばかりの新作を一堂に集め、特別感謝価格でお届け致します。

## 証紙で知る大島紬



鹿児島本土で製造。  
 本場大島紬織物協同組合発行。



奄美大島で製造。  
 本場奄美大島紬協同組合発行。